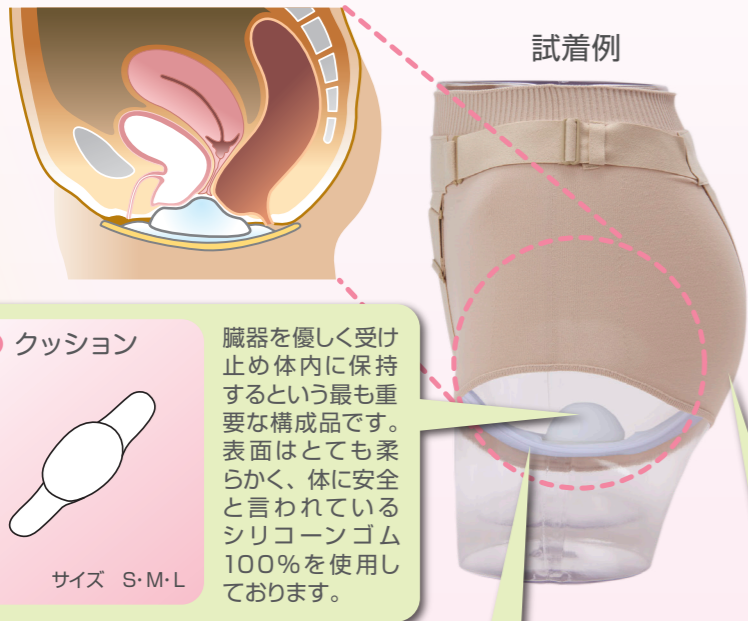


フェミクッションの特長と効果

フェミクッションは、これまで辛い思いをされていた患者様のために新しい治療法として考えられた医療機器です。子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤、小腸瘤など全ての骨盤臓器脱にお使いいただけます。フェミクッションは、独自に開発された、クッション、ホルダー、サポーターを組み合わせ、必要なときに患者様ご自身でお使いいただけます。体内に挿入したり留置するものではないので、臓器や粘膜に負担がかからず、最も体に優しい治療法です。リングペッサリーが落ちやすく適さない方でも、クッションによって下から臓器を支えてあげることで、安心してお使いいただけます。また他人から知られることのないよう配慮し、下着に見えるようデザインしております。フェミクッションの使用により、病状の進行を防ぎます。痛みや出血の悩みから解放され、快適な日常生活を送っていただけます。

装着イメージ



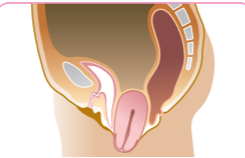
- **ホルダー**
- **布製ホルダー**
- **使い捨てホルダー** 1セット50枚入(別売)



膀胱瘤
お腹側にある膣の壁とともに膀胱が下がってくる



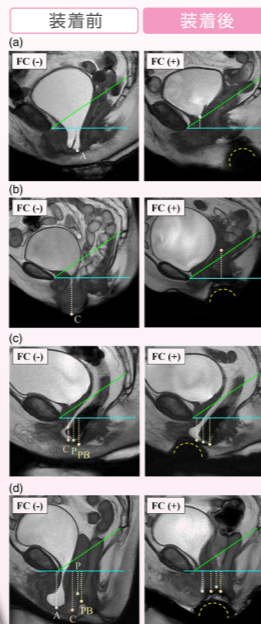
直腸瘤
背中側にある膣の壁とともに直腸が下がってくる



子宮脱
子宮が膣の中に下がってくる



小腸瘤(腔断端脱)
子宮を取った後に膣の壁が下がってくる

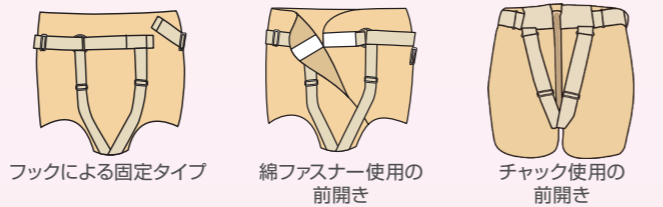


MRI画像は、(a) 膀胱瘤、(b) 子宮脱、(c) 腸瘤と直腸瘤、(d) 完全な外反を示し、フェミクッションはすべての患者で会陰の下の半球(点線)として確認され、すべての脱出臓器は、フェミクッションを装着した場合の方が有意に高い位置に支え、骨盤臓器脱が改善されている。

出典: Nomura Y, Yoshimura Y, et al. Magnetic resonance imaging evaluation of the effectiveness of FemiCushion in pelvic organ prolapse. J. Obstet. Gynaecol. Res., 48(5): 1255-1264, 2022

- **サポーター**
- 横と縦のベルトを調整することにより、クッション部分を膣口に密着させ、臓器を定位置で固定するという、とても大切な役割をしています。
- サイズ I・II・III
タイプ ミディー・らくらく・ジッパー

※ご購入時にサポーターのサイズとタイプをお選びいただけます。



フェミクッション・スターターキット



初めてフェミクッションをお使いになる方には、スターターキットをご購入頂きます。(初回に限り、単品でのご購入は出来ません。) サポーターは腰回りに合わせて3つのサイズと、3つの種類からお選びいただけます。

● サポーターのサイズ

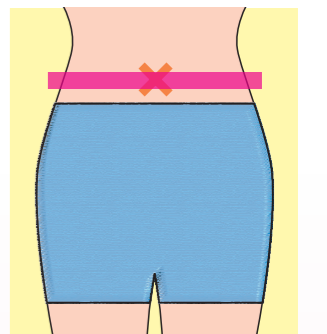
サイズ	I	II	III
おへそ周り (cm)	60~80	70~90	80~100

※上記以外のサイズにつきましては、別途お問合せください。※仕様は予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

パッケージの内容

- クッション (S・M・L / 各一個)
- ホルダー (フリーサイズ)
- サポーター (I・II・III / ミディー・らくらく・ジッパー)
- 洗淨栓

サポーターサイズの選定

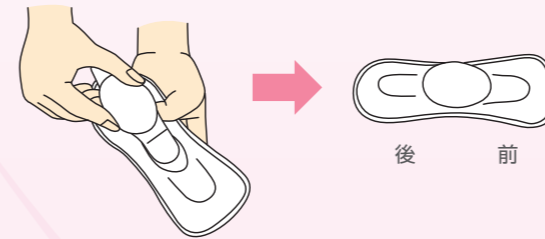


使用方法

ご注意 フェミクッションはクッション・ホルダー・サポーターの3点を使わないと、骨盤臓器脱の症状は改善されません。単品でのご使用、または、他社製品との併用は絶対におやめ下さい。

1 準備

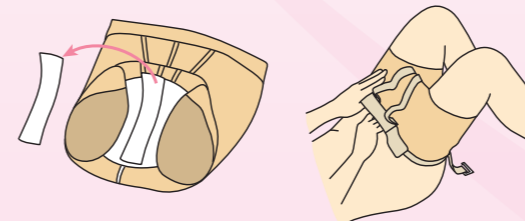
クッションとホルダーをセットします。最初はSからお使いいただき、乾燥が気になる方はゼリーなどを併用してください。



2 装着

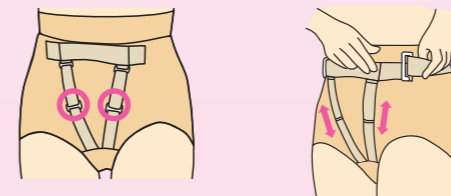
1準備でセットしたクッション部分が膣口に当たるようにしサポーターを履きます。

必ず臓器が収まった状態で履いてください。臓器が体内に収まりにくい場合は横になった状態で装着してください。



3 固定

サポーターの横と縦のベルトの調節をし、クッションを下から押し上げ膣口に密着させ、固定が完了します。

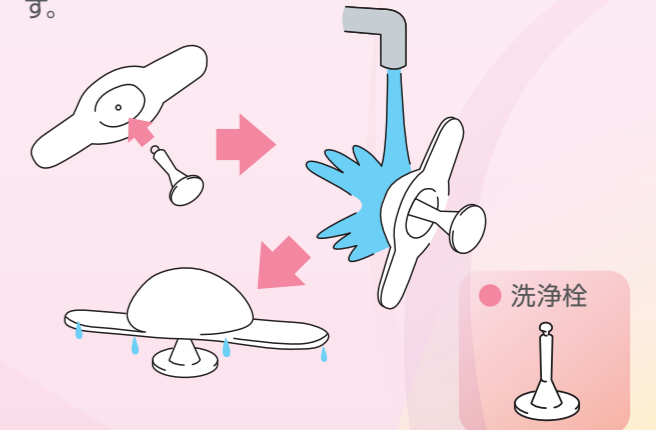


4 トイレでは

横ベルトを外し、サポーターを下ろして排泄を行ってください。排泄後、臓器が出ていない場合はそのまま履いていただけます。もし出ている場合には、臓器を体内に戻してから履いてください。

5 お手入れ

一日が終わったら、就寝前に取り外してください。ホルダーとサポーターは手洗いか、ネットに入れ洗濯し、軽く脱水して乾します。クッションは、裏側の空気穴を洗淨栓で塞ぎ洗浄します。



大切な3つのポイント

- ♥ 必ず臓器が収まっている状態で装着
- ♥ 横のベルトを腰骨に引っかける
- ♥ 縦のベルトで持ち上げる